

# Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO



創 立：1980年(昭和55年)11月10日  
 会 長：泉 憲二  
 幹 事：亀井 直人  
 副幹事：山回 哲司  
 例 会 日：毎週木曜日PM12:30～  
 会 場：ヒルトン名古屋

事 務 局：460-0008  
 名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号  
 T E L：052-211-3803  
 F A X：052-211-2623  
 M A I L：2760\_nagoya@mizuho-rc.jp  
 U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1609回例会

～会員増強及び拡大月間～  
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2013年8月1日(木) 晴 第5回

司 会：広瀬弘幸会場委員  
 齊 唱：「君が代」「奉仕の理想」

### 副会長挨拶

長瀬憲八郎副会長

皆さん、こんにちは。卓話は新会員の田中宏さんにイニシエーションスピーチをお願いしています。よろしく願い致します。



今週の日曜日、地域の氏子総代より伊勢神宮へ研修旅行に行くので参加しないかと誘われ、行くことにしました。衣装は上から下まで白で統一とのこと、何をやるのかは聞いていません。先週水曜日の中日新聞には、伊勢神宮の式年遷宮の関連行事として26日から始まる「お白石持行事」の記事があり、何をやるのか分かりました。

ここで「お白石持行事」についてお話します。宮川で拾って保管しておいたこぶし大の白い石を内宮と外宮へ運び、普段入れない正殿の立つ瑞垣内に敷き詰め、地元の人が雨による土の浸食や雑草を防ぐため、正殿の周りに敷く石を運んで奉仕するようになったのが起源とされています。石を樽に詰め車輪が付いた奉曳車を綱で引く陸路の陸曳(おかびき)が主ですが、そりを付けた台車で川をさかのぼる川曳(かわびき)もあります。

次に、式年遷宮についてお話します。式年とは定まった年を、遷宮とはお宮を遷す、つまり新しい社殿を建て、神様にお引越し頂くということです。しかも社殿の老朽化や汚損に伴う修理ではなく、お祭りとして定期的に行うのが大きな特徴です。伊勢神宮の式年遷宮は20年に一度行われます。

では、なぜ20年に一度遷宮を行うのでしょうか。木造社殿の耐久性、伝統技術の伝承、備蓄米の年限など諸説ある中で、その根底には、「常若」と(とわか)という神道の考えが言われています。あまり聞き慣れない言葉ですが、「若」とは年齢ではなく、常に若々しい、常に瑞々しいということです。神様には常に新しい社殿に鎮まっています、私たちをお守り頂くという願いがそこには込められているのです。お正月に汲む「若水」の習慣など、日本人は新しい状態には力があるという考えを持っているからでしょう。私も月曜日に瑞垣の中に入って白石を奉納してきます。御利益がございましたように、お祈りしてきます。

以上で、挨拶とします。ありがとうございました。

### 出席報告

山本英雄出席副委員長

会員63名 出席45名 (出席計算人数46名)

出席率 81.8%

7月25日は補填により 95.9%

### ニコボックス

山本英雄ニコボックス副委員長

- ・故大島君のご浄福を念じて、「往生安楽国」 高村 博三さん
- ・7月29日は誕生日(還暦)60才になりました。お祝いして頂いた皆様に感謝!! 湯澤 信雄さん
- ・1922年8月1日は小生の誕生日です。これから先の便に加齢の日々を送り皆様に厄介かけます。よろしく。 江口 金満さん
- ・本日は50回目の誕生日です。皆様に感謝です。 鶴田 浩さん
- ・今年7月15日、38回目の結婚記念日を迎えました。 高須 洋志さん
- ・8月1日は妻の誕生日で綺麗な花を有難うございました。 鈴木 圓三さん
- ・8月18日は家内の誕生日です。 岩田 吉廣さん
- ・田中宏さん、気楽に行きましょう。 佐治 寛行さん
- ・田中さん、イニシエーション頑張ってください。 湯澤 勇生さん
- ・田中さん、本日のスピーチ楽しみにしています。 堀 慎治さん
- ・田中さん、卓話楽しみにしています。 鈴木 淑久さん
- ・先週の幹事慰労会には、沢山の方において頂き、ありがとうございました。 平野 好道さん

### 幹事報告

亀井直人幹事

- ・本日13:40よりヒルトン名古屋9階「つるの間」にて第1回R情報・研修委員会を行います。
- ・8月8日(木)17:00よりエビスゴーゴーカフェ千早パンケットにて臨時理事会を行います。
- ・8月8日(木)18:00よりエビスゴーゴーカフェ千早パンケットにて親睦例会を行います。

### 8月お誕生日おめでとう

江口 金満さん 鶴田 浩さん 佐藤 善乙さん  
 山田 鎮浩さん 広瀬 弘幸さん

### 卓話

田中宏さん

松波恒彦直前会長、堀慎治さんのご推薦により入会させて頂くことになりました、田中宏と申します。私は1965年1月9日生まれの日年の48歳です。生まれは母の実家がある岐阜県可児市ですが、6歳から現在住んでいる尾張旭市で育ち、妻、中学1年生の長男、小学6年生の次男の家族4人で暮らしています。1987年地元の大学を卒業後、東京で他業種に勤めて一人暮らしを謳歌していましたが、1989年の春に両親から至急帰省せよ、との連絡があり、そこで創業者の祖父が余命いくばくもないことを知らされました。両親から名古屋へ帰って家業である会社に入社するか、一生東京で勤めるのかと決断を迫られ、同年9月に名古屋へ帰って以来24年余が過ぎ、現在は名古屋市東区の(株)建光社の代表取締役をして



おります。名古屋へ帰ってきて主に実務作業をしていた当時は、修行中で覚えることも沢山あり、バブル経済全盛期で人手不足の現場作業が忙しかったこともあり、土日出勤、さらには夜間作業が加わり休日返上で働いておりました。我々ビルメンテナンス業は土曜日と日曜日に作業をすることが多いので、雇用される側で、土日休みが当たり前であった前職をととても懐かしく感じ、また休日のたびに誘いあって出かけていく同年代の友人をとでもうらやましく感じておりました。クリスマスや年末年始で楽しいイベントも多かったのと、友達と遊べない淋しさや前職とのギャップで心身ともに辛い時期でしたが、その時始めた現在の趣味の一つであるゴルフに出会い、昼でも夜でも一人で練習していれば、仕事でモヤモヤした気分を変えることが出来たので随分と救われた気がします。現在、メインの趣味と言えるのはゴルフと庭の芝生管理、自転車です。大学卒業後からバイクを楽しんでおり結婚後も乗っていましたが、8年ほど前に10歳下の従兄弟が急逝した際に取り残された一人娘の泣き叫び悲しむ姿を見てから乗ることを封印しており、両親をしっかりと送り出して、子供たちが一人前になってから再会することを楽しみとしています。また趣味になるかはわかりませんが、愛知県の無形文化財の指定を受けて今年で55年を迎える「尾張旭市の棒の手」を6歳から40年以上続けています。せっかくの機会ですから画像を交えながら棒の手をご紹介します。

棒の手の発祥起源ははっきりしていませんが、尾張：三河の地域から織田信長：豊臣秀吉：徳川家康の三大武将が、天下統一を目指し兵力の増強に奔走していた時代に、農民が農兵として徴用され後方の雑役などに使われたことにより、農民自らが自衛武芸を志すようになったという有力説があります。これを裏づけるように棒の手の発祥地である、尾張・日進・長久手村の農民が、1584年頃の小牧山合戦を始めとする、岩崎城合戦・長久手合戦で徳川や織田方に協力した記録が残っているようです。その後時代が移り変わり天下泰平の世の中以降は、祭事芸能の一つとして定着をしたと言われています。これらの名残として、現在も尾張東部から西三河地区で棒の手が継承されており、尾張旭市以外の地域では小牧、春日井、長久手、日進、豊田、藤岡、旭、足助、安城、西尾などで〇〇棒の手保存会という名称で地元では慕われています。尾張旭市内には新居地区の「無二流」、稲葉地区の「検藤流」、印場地区北部の「直心我流」と「東軍流」、印場地区南部の「直師夢想東軍流」の五つの流派があり、私が所属している流派は、印場南部地区の「直師夢想東軍流」です。着用する衣装は上からハチマキ、黒い半纏、白タスキ、風切(竜の飾り刺繍入り)、腕抜き、モモヒキ(色があざぎ色)、脚絆、タビ(黒又は紺色)、わらじを着用し、実際に演技をしない長老は「杖つき」と呼ばれ、頭に笠を、半纏の上に羽織を着用して竹製の杖をついて、隊列の前部を歩いて先導していきます。棒の手に使う道具は、太刀、棒、(共に桜の木製)、真剣(刃は潰したもの)、槍薙刀、鎌(鎖鎌・長柄鎌)、これらに演技前の場を清めるための塩を運ぶ塩振り桶です。

演技の特徴としては棒と太刀の演技(1本目から9本目)が多いのですが、棒対棒あるいは花棒と呼ばれる棒と真剣、真剣と鎌などの組合せもあります。(一本槍、長柄鎌、二本槍三人詰、二刀霞隠)小学生の頃、真剣を使用した花棒は華やかで見栄えも良いため早く上達して演技できるようになるのが楽しみでしたが、現在は真剣を使用しない棒と太刀を使用した演技で、いかに「切れ良く」見せるかという部分に魅力を感じています。切れのある演技をするために腰はより低く、脚はより大きく開いて静止してから、大きな掛け声とともに、次の動作にかかることが必要です。演技の時間は長いもので1分30秒程度なのですが、1回演技をすると、立っているのが困難なほど踏ん張る力が抜けるため、足腰の鍛錬を怠っては充分な演技を披露することができません。後進の指導として地区の子供達に教えています。脚力不足のためか、理想の形とは随分とかけ離れてしまいます。でも、彼らもいつの日かこのような姿勢を取ってくれると

期待して指導を続けています。また私の息子二人も在籍して練習を重ねて演技が出来るようになってきたので、近い将来親子で演技ができることは私にとって格別の喜びです。以上、ご説明を申し上げたような衣装を着用して演技をします。

毎年10月第2週の日曜日に開催される秋祭りでは、隊列を作り渋川・瑞鳳の2つの小学校の学区内、各地区で演技を披露しながら、朝8時から14時半頃まで8キロほどを練り歩き、最終目的地の渋川神社の直前で印場地区の2流派と合流して、神社に3流派が揃って入場します。隊列には火縄銃の鉄砲隊も加わり空砲を撃ちますので、迫力は満点です。機会がありましたら、ぜひ一度実際にご覧頂きたいと存じます。

## 森の防波堤プロジェクト 八木沢幹夫社会奉仕委員長

### どんぐりの発芽苗植え替え

内田さんのゴルフ場(岐阜美濃)で予想外に多くのどんぐりが発芽しました。その苗木をポットに植え替える為、8月4日(日曜日)5人の会員が岐阜美濃GCへ出かけました。暑い中、休日にも関わらずご参加頂いた会員諸氏に心より感謝申し上げます。快晴のゴルフ場へ出かけ、ゴルフもせず帰ったのは恐らく全員初めての経験であったと思います。

参加メンバー：八木沢幹夫、岩田修司、松波恒彦、高須洋志、鈴木健司



## 例会のご案内

- 今週の行事 8月8日(木) 親睦例会  
場 所：エビスゴーゴーカフェ千早バンケット  
時 間：18:00～20:00
- 8月15日(木) R規定により休会
- 次々週行事 8月22日(木) ガバナー補佐訪問  
場 所：ヒルトン名古屋4F「桜の間」